

テロ組織 I S I S の武器と資金の支援者

(イランラジオ日本語放送 2015.04.05 18:08)

これまで2回に渡り、テロ組織 I S I S の構成と、この組織の誕生への西側やその地域の同盟国の関与についてお話ししました。

今夜の番組では、西側とその地域の同盟国であるトルコ、サウジアラビア、カタール、アラブ首長国連邦が、I S I S の結成と、シリアやイラクでのテロ行為のための武器の供与にどのような役割を果たしているかについてお話しします。これによって、テロとの戦いを主張する西側諸国が、世界最大のテロ組織の結成と装備にどのように関与しているかが分かるでしょう。

実際、世界各地から集まってくる戦闘員を訓練し、その資金や武器を確保するには、一つの統一の取れたネットワークが必要です。それがなければ、I S I S がわずかな期間に、シリアとイラクの大部分を占領することは不可能だったでしょう。I S I S の資金源は、主にサウジアラビアの王子たちであり、カタール、アラブ首長国連邦、クウェートを通して I S I S の手に渡っています。武器を確保するため、テロリストが使用する資金の一部は、西側諸国の金融機関に振り込まれています。

ドイツの大学のアラブ世界研究所の所長は、「サウジアラビア、カタール、クウェート、アラブ首長国連邦などのペルシャ湾岸のアラブ諸国が、I S I S への最大の資金提供者である」としています。ワシントン近東政策研究所のロリ・プロトキン・ボガート研究員は、I S I S へのサウジアラビアの資金提供について、次のように記しています。

「外国は、シリアで活動するテロ組織に資金援助が渡ったことを確かめるために、サウジアラビアの提供者に対し、その資金をクウェートに送るよう求めている。なぜならクウェートは、ペルシャ湾岸諸国の中でも、テロ組織への資金引渡しにおいて最も信頼できる国だからだ」

ボガート研究員によれば、I S I S は、サウジアラビアから資金援助を受けている一方で、原油や武器の密輸、文化財の強奪、賄賂や窃盗などの独立した資金源も確保しています。一方でトルコは、原油を密輸し、I S I S に資金を提供する上で最大の役割を担っています。そのため、I S I S に対抗する方法の一つは、このテロ組織の資金源を絶つことです。しかし、アメリカをはじめとする西側諸国が結成した対 I S I S 連合は、I S I S への資金援助を断絶しようとしていません。このことは、彼らが真剣に I S I S に対抗する意思がないこと、対 I S I S 有志連合の結成は、世論を欺くためのものに過ぎないことを示しています。

I S I S の武器の供給源を知れば、I S I S が、どの程度、西側とその地域の同盟国、トルコやサウジアラビア、カタールやアラブ首長国連邦によって作られた組織であるかが分かります。シリアやイラクの政府軍や義勇兵が、I S I S によって占領された地域の解放のために行ってきた作戦の中で、中国やロシア、アメリカやシオニスト政権イスラエル、一部のヨーロッパの各種の兵器が見つかりました。ロシアや中国の兵器は、主に、I S I S が、シリアやイラクの広い地域を占領した後、基地から盗み出されたものです。しかし、西側の兵器は、彼らが直接、あるいは間接的に I

S I S に供与した兵器です。

アメリカの外交誌フォーリンポリシーは、昨年 10 月、ジェフリー・スミス氏の署名で、I S I S の兵器の供給源に関する報告を発表しました。ジェフリー・スミスは、「I S I S はどこから武器を手に入れているのか」と題するこの報告の中で、次のように記しています。「I S I S がイラクやシリアで使用している兵器の多くは、アメリカのものだ」

この報告では、次のようにあります。「武器を管理する独立した機関は、I S I S が、アメリカをはじめとする 21 か国で製造された武器や爆薬を使用していることを示す情報を集めた」

一部の報告は、I S I S の収入源が、石油の他にもあり、それは、中東の戦争で利益を得る企業や仲介者から武器を購入することができるほどのものであることを示しています。また別の調査では、ロンドンの独立した兵器調査団体が、紛争地域の兵器の種類や出所を特定するため、専門家団を現地に派遣し、それに基づいて新たな情報を発表しました。この団体の報告では、昨年 7 月から 8 月にかけてイラクの北部とシリアで発生した I S I S とクルド人勢力の紛争で収集された爆薬や銃弾 1,700 発以上の出所が示されており、そこでは、「アメリカもまた、I S I S への主な兵器の供給国であり、323 発の銃弾や爆薬がアメリカ製だった」としています。

国連も、I S I S への兵器の供給源に関する報告を発表しました。それは、I S I S の兵器庫が、様々な国の各種の兵器で溢れていることを物語っています。この報告では、I S I S の兵器庫の規模が指摘されています。国連の調査員たちは、その兵器庫が存在する範囲や規模、数などに注目し、I S I S は最も活発なテロ組織の一つで、その活動は広範囲にわたるとしています。国連の調査によれば、I S I S の兵器庫には、T55、T72 戦車、アメリカ製の地对空ミサイルを搭載できる軍用車両、短距離対空砲などがあります。

I S I S の戦闘員の多くは、リビアや中東の紛争国において、戦争の経験を持つ好戦的な人々です。しかし、アメリカやヨーロッパ、一部の東アジア諸国から I S I S に加わる人々は、そのような経験を持たず、最新の兵器を使用するためには訓練を受けなければなりません。彼らをどのように訓練するのか、その方法は、I S I S の装備と立場の強化に、欧米とその地域の同盟国が関わっていることを示しています。

昨年、イラク北部の都市モスルの近郊で、トルコ人将校数名が拘束されました。彼らは、I S I S のメンバーが、イラクでの作戦のために訓練され、その訓練が、トルコの将校の監督のもとで、トルコにあるインジルリク基地で行われたことを明らかにしました。インジルリク基地は、アメリカが国外に持つ基地の中でも最大規模のものです。アメリカは、この基地におよそ 90 発の核爆弾を保管しています。I S I S のメンバーは、そのような重要な基地で訓練を受けていたのです。この他、トルコ南東部の都市、ガジアンテップでも、I S I S のメンバーの訓練が行われています。少し前に、イラクの新聞、アッサバーは、消息筋の話として次のように報じました。

「アブバクル・バグダディと I S I S のもう一人のメンバーは、少なくとも 2 年間、これらのキャンプで軍事訓練を受けた。彼らはまた、イスラエルの航空機を利用してイスラエルを訪れ、

この政権の治安関係者と会談している」

シオニスト政権の軍と諜報機関モサドが、I S I Sの訓練に関与していることを示す報告は数多くあります。この訓練は、自由な軍への支援という形で行われていますが、実際は、I S I Sを強化するためだけのものでした。イスラエルのニュースサイト・デブカは、これについて、アメリカのC I Aによってヨルダンで訓練され、アメリカの支援を受けたシリア自由軍に属する武装グループが、I S I Sに加わったと報告しました。このニュースサイトは、シオニスト政権軍の反テロ部隊の話として、イスラエル軍も、この武装グループが、シリア政府軍と戦うために武器を供与したと伝えました。

イスラム世界の世論は、西側政府と、イスラム教徒の第一の敵であるシオニスト政権によって基盤が築かれたこのような組織が、一体どうしたら、イスラムの復活を主張することができるのか、そうした疑問を持ってはいます。明らかに、タクフィール主義のテロ組織I S I Sは、イスラムの名のもとに、いくつかの目的を追求しており、アメリカやイスラエルにおけるシオニズムの思想から生まれたものです。彼らの目的は、イスラムのイメージを壊すと共に、シオニスト政権に対する抵抗戦線を消滅させることにあるのです。

今回の番組では、アメリカをはじめとする西側政府が、なぜ、それほどの資金を投じてI S I Sを強化しながら、一方で、この組織と戦うための有志連合を結成したのかについてお話しする予定です。

<http://bit.ly/1IC1zZe>

シリアとイラクでI S I Sが急速に進軍した理由

(イランラジオ日本語放送 2015.04.12 21:18)

前回のこの番組では、I S I Sの資金や武器の供給源と、I S I Sのメンバーの訓練における西側とその地域の同盟国の役割についてお話ししました。今回は、I S I Sが、シリアやイラクの一部の地域で急速に進軍した理由についてお話しします。

I S I Sは、西側諸国の支援と、トルコ、サウジアラビア、カタール、アラブ首長国連邦によるシリアやイラクでの危機発生への直接の関与がなければ、世界最大の統率のとれたテロ組織となることはできませんでした。現在も、このタクフィール主義のテロ組織の存続は、こうした支援にかかっています。

昨年半ば、イラクの戦場で大きな変化が起こり、注目を集めました。I S I Sがわずかな期間に、イラク北部のニナワ州の州都で、イラクの第二の都市であるモスルを制圧したのです。I S I Sの急速な進軍と占領下での犯罪は、イラクに警鐘を鳴らしました。I S I Sのメンバーは、首都バグダッドのすぐ手前に達していました。

I S I Sのイラクでの急速な進軍と、この国の広大な地域の占領について、政治アナリストは数々の理由を挙げています。モスルは、イラク軍の最大の基地があるにも拘わらず、簡単に陥落してしまいました。その理由の一つは、モスルの関係者と軍司令官が、I S I Sと取引を行ったことだとされています。

イラクの元独裁者、サッダーム・フセインは、その統治時代に、何年もかけて軍を統率し、幹部すべてを旧バース党の勢力で固めました。イラクが占領され、軍が崩壊した後、イラクに新たな軍が設立されましたが、アメリカ占領軍は、サッダームの反対勢力とイランがつながりを持っているという理由で、このグループを新たなイラク軍に入れませんでした。アメリカ占領軍は、イラクの統治政権に圧力をかけ、イラクの新たな軍を管理するために、サッダーム・フセイン時代の軍の将校を呼び集めることを主張しました。こうして、サッダーム・フセイン軍時代の司令官が、再び、軍の重要なポストを担うことになりました。

イラクの新たな軍に入った旧バース党の将校は、イラクの新たなシステムを支持していなかったため、新たな軍でも、経済的な不正を行いました。軍幹部に不正が広まったため、司令部たちにもI S I Sに対抗する力はなく、そのような幹部の不正を目のあたりにした兵士たちも、抵抗する意欲を失っていました。こうした中、イラク政府の崩壊を狙う軍の旧バース党勢力の動機もまた、モスルをI S I Sに明け渡す上で考慮しなければならないでしょう。

とはいえ、2014年半ばにI S I Sが急速に進軍した唯一の理由は、軍における旧バース党の存在だけではありませんでした。西側やトルコ、サウジアラビア、カタール、その他の地域諸国によるシリアのI S I Sへの資金や武器の供与も、イラクでのI S I Sの進軍を促す要因となりました。シリア軍と武装勢力の衝突により、シリア政府は、イラクとシリアの国境の広大な地域のコントロールが不可能になり、またこの長い国境地帯をコントロールすることは、イラク軍にとって困難なことでした。そのため、シリアからイラクへの武器や爆薬の密輸が増加し、西側政府が、シリアの反対勢力に供与していた武器がイラクに流れ、I S I Sはイラク軍との戦争でそれらの武器を使用しました。

I S I Sは、モスルを占領し、イラク軍の武器を強奪することで、この国の他の地域への進軍を続けました。イラクの一部の部族がI S I Sに同調したことも、このタクフィール主義のテロ組織の急速な進軍を促しました。とはいえ、I S I Sの力は、戦場におけるものよりもむしろ、メディアの宣伝において強いもので、それはアラブの一部のニュースチャンネルの支援によってさらに高まりました。I S I Sが占領下にある地域で行った犯罪の報道は、I S I Sに脅かされている地域に恐怖と懸念を広め、これらの地域の人々は、I S I Sの手にかからないようにするために、町や村を離れていきました。

とはいえ、一部の都市では、人々がI S I Sに対して称賛に値する抵抗を見せました。その一つが、イラク北部のアメルリでした。この町の日々とは、3ヵ月近く、I S I Sに抵抗し、最終的に、支援部隊の到着によって、I S I Sを撤退させることに成功しました。

イラク政府が警鐘を鳴らした頃、イラクのシーア派最高権威、スィースターニー師は、ジハード

の教令を出しました。この教令により、シーア派とスンニー派のイラク人数十万人が、I S I Sに対抗するために立ち上がりました。I S I Sに対抗する義勇兵を統率するために人民委員会が設置されました。国際分野でも、アメリカが対I S I S有志連合を結成し、シリアでI S I Sを支援していたトルコ以外の国々が、この連合に加わりました。彼らはそうする他にありませんでした。なぜなら、I S I Sによって行われた大規模な犯罪が、このグループに対する嫌悪の波を世界中に作り出していたからです。I S I Sが地域諸国や西側諸国にまで広がるのではないかという懸念により、西側諸国は、対I S I S有志連合に加わるしかありませんでした。

しかし、アメリカも、その同盟国も、この連合でI S I Sに真剣に対抗する意志はありませんでした。今もそれは変わっていません。彼らはI S I Sの兵器庫や拠点にダメージを与えるために空爆を開始しました。しかし、そのような攻撃のいずれも、I S I Sに深刻なダメージを与えませんでした。それどころか、この攻撃で、シリアやイラクの経済や産業のインフラが大きな被害を蒙りました。しばらく後、I S I Sは経験によって、対I S I S有志連合の空爆を逃れる術を学びました。このように、対I S I S有志連合の空爆は、アメリカとその同盟国が、政治やプロパガンダとして利用し、世論を欺くための手段に過ぎなかったのです。

もし、西側政府が本当にI S I Sに対抗しようとするのなら、トルコを同調させるだけで十分です。トルコの国境は、I S I Sに支援が送られ、世界各地から人々がI S I Sに加わる上で最大の通過点となっています。シリアのクルド人が住む町、コバニは、トルコとの国境から2キロの場所にあります。この町は、I S I Sの攻撃に対するこの地域の人々の抵抗の象徴です。コバニは、I S I Sの激しい攻撃を受けましたが、人々は持てる可能性によって自分たちの町を守りました。こうした中、トルコ軍は、シリアとの国境に戦車を配備するに留まり、I S I Sの攻撃やコバニのクルド人の集団殺害をただ見ているだけでした。

最近まで、トルコと共にI S I Sを支援していたこの国の同盟国も、トルコ軍と同じように、コバニの人々の集団殺害をただ眺めているだけでした。一方で、イラクとシリアの人々のI S I Sへの抵抗を支援した国もありました。それがイランです。イランはこの数年、イラクとシリアの政府や人々のタクフィール主義のテロ組織への抵抗において、最大の支援を行ってきました。シリアとイラクの抵抗勢力は、これまで何度も、そのことを認めています。

イラクのマスーム大統領は、I S I Sへの抵抗へのイランの支援を認めたイラクの政府高官の一人です。マスーム大統領はインタビューの中で、「イランはI S I Sが誕生し、モスルを攻撃した当初から、我々に多くの軍事、人道支援を提供した」と語りました。AP通信も、これについて、次のように報じています。「イラクの多くの人々にとって、I S I Sへの抵抗における最大の同盟国は、アメリカでも、対I S I S有志連合でもなく、イランである。イランはこの過激派のバグダッドへの攻撃を妨げた」駐イラク・アメリカ大使は、AP通信のインタビューで、「イランはI S I Sへの抵抗において重要な役割を果たしている」と述べています。この発言は、イランが、I S I Sをはじめとするタクフィール主義のテロ組織との闘争において、地域で中心的な役割を果たしていることを示すものです。

<http://bit.ly/1Hjfc1A>